

小特集  
近代アメリカにおける写真に見る風俗研究  
— ジョアン・セヴラの研究に基づいて —

濱田 雅子

はじめに

第五十四回日本風俗史学会大会の小特集「近代視覚資料を用いた風俗研究」に、パネラーとして「近代アメリカにおける写真に見る風俗研究—Joan Severa 女性の研究に基づいて—」というテーマで報告を行った。

本報告の目的と方法は「Joan Severa, *Dressed for the Photographer: Ordinary Americans and Fashion* (1840-1900), Kent State University, Ohio, Kent, 1995, P.592. の紹介・分析を通じて、近代アメリカにおける写真に見る風俗研究を論じる」というものである。

本稿では、本報告をもとに、第一章では、ジョアン・セヴラ (Joan Severa) の写真資料を用いた研究方法に

ついて述べる。第二章ではジョアン・セヴラの写真資料を用いた研究から得られた筆者の知見を箇条書きにまとめる。最後に第三章では、第二章の内容を踏まえて、近代アメリカにおける写真に見る風俗・服飾研究の今後の課題について述べる。

— ジョアン・セヴラの写真資料を用いた研究方法

本書はジョアン・セヴラが三十年と言う歳月をかけて取り組まれた大著で、アメリカの服飾研究者から高く評価されている。彼女はウイスコンシン歴史協会の学芸員を三十年にわたって歴任する傍ら、アメリカ服飾学会の理事や多くの博物館のコンサルタントとして

活躍してこられた。本書のサブ・タイトルに“Ordinary Americans”とあるが、本書は庶民、すなわち、ミドルクラスや下層のアメリカ人たちが、ダゲレオタイプ(Daguerreotype)の写真技術導入後の一八四〇年から一九〇〇年の六十年間に、記念写真にどのような装いでおさめられたのか、彼らのバックグラウンドや服装のディテールの分析も含めて、マテリアル・カルチャー(物質文化)の視点から書かれた大著である。上流階級を対象とした服飾研究書は、欧米において多数見られるが、「アメリカの庶民」の衣服研究を行った研究書は大変、稀少である。掲載された写真は何と二七三枚。服飾の専門家の視点で写真のなかの服装が的確に分析されている。当該時期の六十年間を十年単位で区分して、年代毎に考察した本書は六章から構成され、各章の前半では、時代背景と女子服、男子服、および子ども服のファッション傾向と各アイテムの特徴がまとめられている。後半では、十年単位で、ジョン・セヴラが全米から収集した写真が掲載され、服飾の専門家の視点から、目を見張るような克明な解説が付けられている。

表1はジョン・セヴラが収集した写真の種類の推移

表1 ジョン・セヴラが収集した写真の種類の推移

写真の種類	1840年代	1850年代	1860年代	1870年代	1880年代	1890年代	総計
ダゲレオタイプ	37	45	5	0	0	0	87
アンプロタイプ	0	4	4	0	0	0	8
ティンタイプ	0	5	6	2	3	0	16
カルト・ド・ヴィジット	0	2	11	9	0	0	22
ガラス・プレート・ネガティブ	0	0	4	9	4	16	33
キャビネット・フォトグラフ	0	0	1	0	1	0	2
スタジオ・ポートレート	0	0	0	11	6	0	17
ステレオ・スコープ・ビュー	0	0	1	0	0	1	2
記載なし	0	2	22	5	25	36	90
総計	37	57	54	36	40	52	277

を筆者が一覧にしたものである。

ダゲレオタイプ写真法は、一八三七年にフランスのルイ・ダゲール (Louis Jacques Mande Daguerrre, 1787-1851) により発明され、一八三九年八月十九日にフランス学士院で発表された世界最初の実用的写真技法である。銀板上に直接左右反転した白黒画像を得るダイレクタプロセスである。我が国では銀板写真と呼ばれている。湿板写真を利用したティンタイプ、およびアンブロタイプ写真は、高価なダゲレオタイプに代わり直接ポジ画像を見ることができるとして一八五〇年代以降広く普及した。カルト・ド・ヴィジットは名刺の代用で、フランス人発明家のアンドレ・アドルフ・ウジェーヌ・ディデリ (André-Adolf-Eugène Disdéri, 1819-1889) が、一八五九年に発明した。素材はアルビュメン・プリントである。ガラス・プレート・ネガタイプは、アンブロットのすぐあとに登場したガラス乾板のことである。ガラス乾板は、薬品がその名の通り、乾いた状態でガラス板についている。ネガポジ法である。キャビネット・フォトグラフはキャビネットに飾れたことに由来する名前をもつ。ステレオスコープ・ビューはステレオスコープを

使って覗く 3-D 写真である。

## 二 ジョアン・セヴラの写真資料を用いた研究から得られた知見

筆者はジョアン・セヴラの本著作を全ページ翻訳し、翻訳原稿を繰り返し読みながら、できるだけ客観的に本書における写真分析から得られた知見を、以下に年代毎に箇条書きにまとめた。本稿では、紙面の都合により、原書に掲載された二七三枚の写真のなかから八枚選択して掲載した。その他の筆者が随意選択した本文に該当する本稿未掲載の写真については、参考までに注に原書の掲載ページを明記した。各年代別の考察に先立ち、本書全体を通じて得られた二つの知見を提示する

(1) 服飾および風俗の研究方法はファッション雑誌、ファッション・プレート、写真、文献(先行研究、日記、手紙など)を活用する方法、また、衣服やテキスタイルの実物調査をする方法、など、多様な方法があるが、写真を読み解く研究は、服飾および風

俗研究の重要な領域であり、写真産業史の領域とタイアップして行われなければならない。

- (2) 「ゴードイス・レディーズ・ブック」<sup>(1)</sup> (Godsey's Lady's Book) に掲載されたファッション・プレートは、流行に関する情報であった。本書に掲載されたダゲレオタイプ他の写真は、一八四〇年から一九〇〇年に渡る時期のアメリカ人の衣生活の実態をとらえた歴史的資料である。両者の果たす役割も歴史的意義も異なっている。二七三枚の写真資料に解釈を加えたジョアン・セヴラの研究は、アメリカ服飾・風俗研究においてその価値を高く評価されることは衆目の一致するところであろう。

(1) 一八四〇年代

- ① 最初の実用的写真技法であるダゲレオタイプは、一八三九年晩秋にニューヨークに導入された。  
 ② ダゲレオタイプの写真に写っている被写体は、主に裕福な人々である。  
 ③ 彼らの服装はヨーロッパの王政復古調の流行を追っている<sup>(2)</sup> (図1)。



図1 1839-1840年  
 ダゲレオタイプ  
 Matt Isenburg 提供

- ④ だが、ヨーロッパアン・ファッションに装いきれないアメリカの環境は特に素材不足において、歴然としている。  
 ⑤ 仕立て屋が仕立てた衣服と家庭裁縫の衣服の違いが写真と解説からはつきりと読み取れる。  
 ⑥ わずか一枚だが、工場の女工の労働着が写真と解説から読み取れる。  
 ⑦ アフリカン・アメリカン<sup>(6)</sup> (図2) と先住アメリカ人<sup>(7)</sup> (図3) の肖像写真から彼らの服装が読み取れる。  
 ⑧ 本章における写真の解説に被写体のバックグラウンドに関する情報が記載された写真は、三十七枚中わずか九枚 (二十四パーセント) である。ちなみに、本書



図3 1849-1850年  
チッペア族 ダゲレオタイプ  
The State Historical Society  
of Wisconsin 提供



図2 1848-50年 奴隷  
ダゲレオタイプの写真から撮影  
The Georgia Historical  
Society (5-56-254A) 提供

全体としては、平均二十パーセントの写真に被写体のバックグラウンドに関する情報が記載されている。バックグラウンド解明の困難さが伺える。



図4 1852-1855年  
仕事着姿の男たち ティンタイプ  
The National Museum of  
American History (59.229) 提供

(2) 一八五〇年代

①ダゲレオタイプに続いて、アンブロタイプとティンタイプの写真技術の発明により、一八五〇年代には写真撮影はより大衆化した。

②だが、衣服を通じてエリート社会に仲間入りしたい中流階級の人々は、できるだけ装って写真におさまろうとした。また、安価なティンタイプが発明されても、高価なダゲレオタイプの写真におさまることを誇りとした(五十七枚中四五枚)。衣服に着目して写真を読み解くにあたり、このような人々の意識と人々が置かれていたバックグラウンドをも読み解いていかなければならない。

③ダゲレオタイプの屋外で撮影された写真<sup>(8)</sup>も見られるのは、注目に値する。

④アンプロタイプ<sup>(9)</sup>、ティンタイプ<sup>(10)</sup>の仕事着姿の写真は目新しい。ダゲレオタイプのような装った写真ではなく、市井の人々が撮った市井の人々の写真を読み解いていく作業は、中流階級や下層階級の人々の衣生活を考察する上で、大変有用であると確信する。

⑤男性の既製服<sup>(11)</sup>の発達、使用人のお下がり着用<sup>(12)</sup>の様相が写真から読み取れる。

### (3) 一八六〇年代

①一八六〇年代の写真はダゲレオタイプ五枚、アンプロタイプ四枚、ティンタイプ六枚、カルト・ド・ヴィジット十一枚、ガラス・プレート・ネガタイプ四枚、キャビネット・フォトグラフィ一枚、ステレオ・スコップ・ヴェーナー一枚、記載なし二十二枚と多様である。一八六〇年代のミドルクラス、あるいは下層階級のアメリカ人の中には、経済的理由から、多かれ少なかれ流行遅れの粗末な衣服を着用していた人々<sup>(13)</sup>がいたことを具体的に読み取れる。

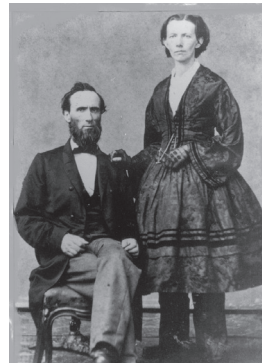


図5 1862-1867年  
ハスブルック夫妻 名刺  
Deborah Fontana Cooney  
提供

②また、家庭裁縫で家族の衣服を作っていた女性のけなげな生き様が、娘の代に受け継がれている様相が手に取るように紹介されている<sup>(14)</sup>。

③健康や運動機能性を考慮して、ドレスにズボンにブーツというリフォーム・ドレスを着用して、ドレス・リフォーム運動に携わっていた人々がいた事実<sup>(15)</sup>（図5）、および、ジェイムズ・ジャクソン（James C. Jackson）の健康保養センターのOur Home on the Hill<sup>(16)</sup>で、締め付け衣裳が原因で健康を害した人々が、リフォーム・ドレスを着用して、療養生活を送っていた事実<sup>(16)</sup>が、貴重な数枚の写真とその解説から裏付けられている。

(4) 一八七〇年代

- ①一八七〇年代の写真には、ダゲレオタイプやアンブロタイプの写真は見られない。わずかにティンタイプの写真が二枚だけ見られる。他はカルト・ド・ヴィジットが九枚、ガラス・プレート・ネガティブが九枚（屋外写真）、スタジオで撮影したもの十一枚（写真技術は未記載）である。安価で大衆的な写真が増えていく。
- ②フランスは流行発信地であったため、クリノリン衣裳からバスル衣裳への移行期も早く、アメリカはそれを追っていた。そして、フランスのファッション・プレートとアメリカの写真を見る限り、一八七七年頃からは両国ともにおいて、バスル衣裳が流行していた<sup>17)</sup>ことが一目で分かる。
- ③男子服の既製品化が、通常着用されている上着やズボンなどから始まったのに対して、女子の通常着用するドレスは、家庭裁縫か、洋裁店か、家庭に回ってくる裁縫婦によって作られていた。一八七〇年代には女子服の既製品は外套類が主であった<sup>18)</sup>。このような状況が写真から読み取れる。
- ④北欧からの移民が写った集合写真（図6）から、彼ら



図6 1873年頃  
デンマークからの移民の家族  
屋外写真

The State Historical Society of Wisconsin  
提供

は衣服を通じて、何とかしてアメリカ社会に同化、あるいは融合しようとしていたことが、明らかに読み取れる。

(5) 一八八〇年代

- ①一八八〇年代の女性ファッションの特徴は、バスル衣裳の登場である<sup>20)</sup>。
- ②パターンシステムの発達から、家庭裁縫である程度の



流行が採り入れられていた。

③だが、ライフスタイルの変化から徐々にシンプルな衣服へと移行して行く様子がうかがえる。しかし、写真に見るように、その変化はゆっくりとしたものであり、アメリカ女性にとってヨーロッパのハイファッションは憧れであったことは事実である。つまり、すぐに拘束性の高いハイファッションがなくなったというわけではなく、この時代には、これらの衣服とともに見ることができるのである。女性の社会進出は、ファッションに影響を及ぼしたが、女性の労働着の特徴として、上流階級の女性のハイファッションと、直接現代の衣服に通じる活動的な衣服の並存が挙げられる。一八九〇年代に広まった現代衣裳へ近づく衣服を写真のなかに垣間見ることができるとは大変興味深い。それまでの流行は、上流階級の女性だけの好みにより確立されてきたが、この時期にファッションの民主化が始まったと言える。

④さらに衣服の大量生産が可能となり、デパートやメーロオーダーシステムの発達により、高価でない衣服が既製服で入手可能になった。

(6) 一八九〇年代

①一八九〇年代は、一八八〇年代に流行したバスル衣裳から現代衣裳に近いものへと変わっていき、衣服の歴史を語る上で重要な過渡期である。この時代に既製服に対する需要が一般化し始め、女性の衣服に大きな変化をもたらした。衣服の価値観も変わった。装飾の凝った衣服からよりシンプルな形へ移行していくのである。ライフスタイルの変化が確実におこり、一人がたくさんの衣服とその種類を持つことが経済面からも可能になった。ファッションの発信源としてパリはまだ強い影響を与えるものではあったが、腰を細く締める傾向は、アメリカではこの時代においてはあまり見られなかったことが写真からうかがえる。

②しかしながら、家庭は依然として生産の場であり、消費の場へと移行してしまつたわけではない。大量生産により、安価な既製服が市場に出回っていたが、多くの主婦はパターンとミシンを駆使して、家庭裁縫によつて、より最新の衣服を手に入れ、節約して暮らした。

③女性が社会に出て、仕事に従事したり、スポーツを楽



- しんだり、自転車に乗ったりするようになると、簡素で、機能的な衣服に対する大きな要求が出てきたのである。そこで、登場したのが、新しいアイテムのシャツブラウス(図7)である。このブラウスはあまりフィットしなくてもよかつたため、家庭で容易に作ることができ、既製服を買う必要はなかつたようである。
- ④セパレートのスカートも家庭で容易に縫うことができ、綿の家庭着や化粧着やマザー Hubbard も家庭で一日で作ることができたようである。こうして、十九世紀末のアメリカの主婦は、一方で節約して、他方で、既製服を買い求める、という合理的な暮らしをしていた。
- ⑤女性用のオーダー・メイドのスーツや乗馬服は紳士服の仕立て師によって作られた。
- ⑥労働に携わる女性の写真には看護婦、工場の女子労働者、黒人の看護婦の写真が、また、スポーツをする女性の写真には、自転車に乗ろうとする女性(図8)が見られる。これらの写真についてのジョン・セヴラの解説は、衣服と労働、衣服とスポーツという視点から、実に明快で、含蓄がある。



図8 1895年  
自転車に乗る少女  
The Atlanta History  
Center(4209)提供



図7 1893-96年 コネチカット州ハートフォードのチャビル・プレーンの仕事場  
The Connecticut Historical Society(882)提供

⑦本章では、大量生産・大量消費社会に向かう、一八九〇年代の過渡期の様相が、中流階級から下層階級の人々が写った五十二枚の写真に、実にリアルに興味深く映し出されている。

### 三 今後の研究課題

最後に、以上の知見を踏まえて、このような写真資料からアメリカの服飾・風俗の何が見えてくるのか、何が研究として不足しているのか、あるいは可能性を秘めているのか、そのためにどのような研究が課題なのかについて整理し、研究の将来の方向性のようなものを示唆できればと思う。

(1) 一八四〇年代から一八九〇年代の上流階級のみならず、ミドルクラスと下層階級の衣服も含めたアメリカの服飾史研究は邦語文献では稀少である。ジョアン・セヴラの著書は、特にミドルクラスと下層階級の衣服研究に貴重な資料を提供する価値高い研究書である。特に、ネイティブ・アメリカン、アフリカン・アメリカン、北欧からの移民、庶民の日常着

や労働着といったアメリカの風俗が見えてくるのは、貴重な成果である。

(2) だが、部族単位の先住アメリカ人の服飾文化、また、例えば、ユダヤ人の衣服など、民族単位の移民の衣服の写真資料を用いたさらに掘り下げた研究が望まれる。

(3) 我が国では写真技術に関する書物は刊行されているが、アメリカの写真に見る服飾・風俗を扱った書物は刊行されていない。筆者はジョアン・セヴラの大著の翻訳出版が実現すれば、現在、我が国において欠落している十九世紀アメリカの服飾史、とりわけ庶民服史に関する書物を誕生させることができるものと確信する。

(4) 第二章第三節で言及したドレス・リフォーム・ムーブメントは、今後の焦点の研究課題である。

(5) 二十世紀のアメリカの写真に見る服飾・風俗研究は今後の課題である。第二次世界大戦を境として、ヨーロッパ志向から脱却して、アメリカ人のためのアメリカン・ファッションが誕生してくる。この分野は研究不足である。写真、ファッション雑誌、お

よび実物資料を用いて、今後、十分な研究が進められなければならない。

図はジョン・セヴラから掲載許可を取っている。

註

- (1) アメリカのファッション雑誌。発行期間は一八三〇年から一八九八年。
- (2) Joan Severa. *Dressed for the Photographer*, *Ordinary Americans and Fashion* (1840-1900). Kent State University, Ohio, Kent, 1995, pp.28-29 (図1)°
- (3) *Ibid.*, pp.74-75.
- (4) *Ibid.*, pp.58-59.
- (5) *Ibid.*, p.65.
- (6) *Ibid.*, pp.60-61 (図2)°
- (7) *Ibid.*, pp.76-77 (図3)°
- (8) *Ibid.*, p.140.
- (9) *Ibid.*, p.171.
- (10) *Ibid.*, p.142 (図4)° p.170.
- (11) *Ibid.*, pp.126-127, p.171.
- (12) *Ibid.*, pp.124-125.
- (13) *Ibid.*, pp.260-261, pp.266-267.
- (14) *Ibid.*, p.244.
- (15) *Ibid.*, pp.238-239 (図5)° pp.274-275.
- (16) *Ibid.*, pp.250-251.
- (17) *Ibid.*, pp.328-329.
- (18) *Ibid.*, pp.322-323, pp.332-333, p.350.
- (19) *Ibid.*, pp.338-339, pp.340-341, pp.342-343 (図6)° pp.344-345, p.346, pp.351.
- (20) *Ibid.*, p.413, pp.426-427
- (21) *Ibid.*, p.451.
- (22) *Ibid.*, p.441.
- (23) *Ibid.*, p.489.
- (24) *Ibid.*, p.496 (図7)°
- (25) *Ibid.*, p.494, pp.534-535.
- (26) *Ibid.*, pp.490-491.
- (27) *Ibid.*, p.503.
- (28) *Ibid.*, p.488, p.496.
- (29) *Ibid.*, pp.522-523.
- (30) *Ibid.*, p.504 (図8)°